

# 連結情報

## 連結財務諸表

### ■連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度末 (平成20年3月31日)	当連結会計年度末 (平成21年3月31日)
<b>(資産の部)</b>		
現金預け金 ※7	18,625	19,620
コールローン及び買入手形	27,300	38,000
買入金銭債権	36	34
有価証券 ※7,13	203,959	196,819
貸出金 ※1,2,3,4,5,6,8	478,339	490,866
外国為替	260	143
その他資産 ※7	4,873	4,557
有形固定資産 ※10,11	12,196	12,158
建物	3,153	3,278
土地 ※9	8,331	8,284
リース資産	—	16
建設仮勘定	66	14
その他の有形固定資産	643	566
無形固定資産	209	245
ソフトウェア	150	186
その他の無形固定資産	58	58
繰延税金資産	4,568	4,151
支払承諾見返	2,805	2,589
貸倒引当金	△5,674	△4,808
資産の部合計	747,499	764,378
<b>(負債の部)</b>		
預金	699,732	717,838
譲渡性預金	12,890	13,430
借入金 ※12	8,466	8,452
外国為替	0	0
その他負債	3,594	3,676
賞与引当金	118	—
退職給付引当金	278	141
役員退職慰労引当金	122	123
利息返還損失引当金	22	16
睡眠預金払戻損失引当金	55	74
偶発損失引当金	47	115
再評価に係る繰延税金負債 ※9	1,899	1,896
支払承諾	2,805	2,589
負債の部合計	730,032	748,357
<b>(純資産の部)</b>		
資本金	7,485	7,485
資本剰余金	5,875	5,875
利益剰余金	4,249	4,180
自己株式	△58	△62
株主資本合計	17,551	17,479
その他有価証券評価差額金	△2,449	△3,858
繰延ヘッジ損益	△26	△0
土地再評価差額金 ※9	2,390	2,400
評価・換算差額等合計	△85	△1,458
純資産の部合計	17,466	16,021
負債及び純資産の部合計	747,499	764,378

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

### ■連結損益計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
<b>経常収益</b>		
資金運用収益	16,428	15,130
貸出金利息	12,281	11,958
有価証券利息配当金	3,574	2,891
コールローン利息及び買入手形利息	277	157
預け金利息	150	17
その他の受入利息	144	105
役員取引等収益	2,466	2,259
その他業務収益	197	220
その他経常収益 ※1	1,161	838
<b>経常費用</b>	<b>21,400</b>	<b>17,911</b>
資金調達費用	3,058	2,460
預金利息	2,007	1,900
譲渡性預金利息	78	76
コールマネー利息及び売渡手形利息	0	0
借入金利息	308	267
その他の支払利息	663	214
役員取引等費用	1,605	1,552
その他業務費用	3,235	2,660
営業経費	11,440	10,584
その他経常費用	2,060	653
貸倒引当金繰入額	1,386	—
その他の経常費用 ※2	673	653
<b>経常利益又は経常損失 (△)</b>	<b>△1,146</b>	<b>537</b>
<b>特別利益</b>		
固定資産処分益 ※3	68	8
貸倒引当金戻入益	—	144
償却債権取立益	33	43
その他の特別利益	0	5
<b>特別損失</b>	<b>335</b>	<b>64</b>
固定資産処分損 ※4	60	44
減損損失 ※5	25	20
その他の特別損失	249	—
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失 (△)	△1,379	675
法人税、住民税及び事業税	827	130
法人税等調整額	△170	414
法人税等合計	—	544
少数株主損失 (△)	△12	—
<b>当期純利益又は当期純損失 (△)</b>	<b>△2,024</b>	<b>130</b>

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ■連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
<b>株主資本</b>		
<b>資本金</b>		
前期末残高	7,485	7,485
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	7,485	7,485
<b>資本剰余金</b>		
前期末残高	5,875	5,875
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	5,875	5,875
<b>利益剰余金</b>		
前期末残高	6,647	4,249
当期変動額		
剰余金の配当	△378	△189
当期純利益又は当期純損失(△)	△2,024	130
土地再評価差額金の取崩	5	△10
当期変動額合計	△2,397	△68
当期末残高	4,249	4,180
<b>自己株式</b>		
前期末残高	△48	△58
当期変動額		
自己株式の取得	△10	△3
当期変動額合計	△10	△3
当期末残高	△58	△62
<b>株主資本合計</b>		
前期末残高	19,959	17,551
当期変動額		
剰余金の配当	△378	△189
当期純利益又は当期純損失(△)	△2,024	130
自己株式の取得	△10	△3
土地再評価差額金の取崩	5	△10
当期変動額合計	△2,407	△72
当期末残高	17,551	17,479

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から 平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から 平成21年3月31日まで)
<b>評価・換算差額等</b>		
<b>その他有価証券評価差額金</b>		
前期末残高	1,981	△2,449
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△4,430	△1,409
当期変動額合計	△4,430	△1,409
当期末残高	△2,449	△3,858
<b>繰延ヘッジ損益</b>		
前期末残高	0	△26
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△27	26
当期変動額合計	△27	26
当期末残高	△26	△0
<b>土地再評価差額金</b>		
前期末残高	2,402	2,390
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△11	10
当期変動額合計	△11	10
当期末残高	2,390	2,400
<b>評価・換算差額等合計</b>		
前期末残高	4,384	△85
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△4,469	△1,372
当期変動額合計	△4,469	△1,372
当期末残高	△85	△1,458
<b>少数株主持分</b>		
前期末残高	12	—
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△12	—
当期変動額合計	△12	—
当期末残高	—	—
<b>純資産合計</b>		
前期末残高	24,356	17,466
当期変動額		
剰余金の配当	△378	△189
当期純利益又は当期純損失(△)	△2,024	130
自己株式の取得	△10	△3
土地再評価差額金の取崩	5	△10
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△4,481	△1,372
当期変動額合計	△6,889	△1,445
当期末残高	17,466	16,021

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 連結情報

## ■連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(△)	△1,379	675
減価償却費	460	443
減損損失	25	20
貸倒引当金の増減(△)	△12	△866
賞与引当金の増減額(△は減少)	△193	△118
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△473	△136
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	122	0
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	17	△5
睡眠預金払戻損失引当金の増減(△)	55	19
偶発損失引当金の増減額(△は減少)	47	68
資金運用収益	△16,428	△15,130
資金調達費用	3,058	2,460
有価証券関係損益(△)	2,019	2,131
為替差損益(△は益)	1,424	△679
固定資産処分損益(△は益)	△7	35
貸出金の純増(△)減	11,476	△12,527
預金の純増減(△)	△18,017	18,106
譲渡性預金の純増減(△)	△9,670	540
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	△17	△13
預け金(日銀預け金を除く)の純増(△)減	△251	1
コールローン等の純増(△)減	22,701	△10,698
外国為替(資産)の純増(△)減	△227	116
外国為替(負債)の純増減(△)	0	0
資金運用による収入	12,747	12,164
資金調達による支出	△2,199	△1,912
その他	△219	833
<b>小計</b>	<b>5,058</b>	<b>△4,470</b>
法人税等の還付額	168	—
法人税等の支払額	△205	△877
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>5,021</b>	<b>△5,347</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△57,511	△82,729
有価証券の売却による収入	11,419	28,783
有価証券の償還による収入	39,275	58,224
投資活動としての資金運用による収入	3,397	3,023
有形固定資産の取得による支出	△713	△441
有形固定資産の売却による収入	142	6
無形固定資産の取得による支出	△109	△44
子会社株式の取得による支出	—	△5
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△4,100</b>	<b>6,816</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
リース債務の返済による支出	—	△1
劣後特約付借入れによる収入	500	—
劣後特約付借入金の返済による支出	△2,000	—
財務活動としての資金調達による支出	△288	△277
配当金の支払額	△378	△190
自己株式の取得による支出	△10	△3
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△2,176</b>	<b>△473</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,255	996
現金及び現金同等物の期首残高	19,337	18,082
現金及び現金同等物の期末残高	18,082	19,078

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## ■連結財務諸表

連結財務諸表は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、新日本有限責任監査法人の監査証明を受けております。

銀行法第20条第2項の規定により作成した書類については、会社法による会計監査人の監査を受けております。

## ■連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(当連結会計年度)

- 1 連結の範囲に関する事項
  - (1) 連結子会社 2社 仙銀ビジネス株式会社 仙銀カード株式会社
  - (2) 非連結子会社 0社
- 2 持分法の適用に関する事項
  - (1) 持分法適用の非連結子会社 0社
  - (2) 持分法適用の関連会社 0社
  - (3) 持分法非適用の非連結子会社 0社
  - (4) 持分法非適用の関連会社 0社
- 3 連結子会社の事業年度等に関する事項
  - (1) 連結子会社の決算日は次のとおりであります。
    - 3月末日 2社
  - (2) 子会社については、決算日の財務諸表により連結しております。
- 4 会計処理基準に関する事項
  - (1) 商品有価証券の評価基準及び評価方法
 

商品有価証券の評価は、時価法(売却原価は移動平均法により算定)により行っております。
  - (2) 有価証券の評価基準及び評価方法
 

有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、その他有価証券のうち時価のあるものについては、連結決算日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は移動平均法により算定)、時価のないものについては、移動平均法による原価法又は償却原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。
  - (3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法
 

デリバティブ取引の評価は時価法により行っております。
  - (4) 減価償却の方法
    - ① 有形固定資産(リース資産を除く)
 

当行及び連結子会社の有形固定資産は、定額法を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

      - 建 物：2年～50年
      - その他：2年～20年
    - ② 無形固定資産(リース資産を除く)
 

無形固定資産は、定額法により償却しております。なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び連結子会社で定める利用可能期間(5年)に基づいて償却しております。
    - ③ リース資産
 

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法によっております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。
- (5) 貸倒引当金の計上基準
 

当行の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下「破綻先」という。)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下「実質破綻先」という。)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取引不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は4,280百万円であります。

連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘

案して必要と認めた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ引き当てております。

- (6) 賞与引当金の計上基準
 

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。
- (7) 退職給付引当金の計上基準
 

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、数理計算上の差異の費用処理方法は以下のとおりであります。

数理計算上の差異：各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(10年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日当連結会計年度から費用処理

なお、会計基準変更時差異(2,385百万円)については、15年による按分額を費用処理しております。
- (8) 役員退職慰労引当金の計上基準
 

役員退職慰労引当金は、役員への退職慰労金の支払いに備えるため、役員に対する退職慰労金の支給見込額のうち、当連結会計年度末までに発生していると認められる額を計上しております。
- (9) 利息返還損失引当金の計上基準
 

利息返還損失引当金は、連結子会社が利息制限法の上限金利を超過する貸付金利の返還請求に備えるため、過去の返還実績等を勘案した返還見込額を計上しております。
- (10) 睡眠預金払戻損失引当金の計上基準
 

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、将来の払戻請求に応じて発生する損失を見積り必要と認める額を計上しております。
- (11) 偶発損失引当金の計上基準
 

偶発損失引当金は、信用保証協会の責任共有制度に係る信用保証協会への負担金の支払いに備えるため、将来発生する可能性のある負担金支払見積額を計上しております。
- (12) 外貨建資産・負債の換算基準
 

当行の外貨建資産・負債については、連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

連結子会社の外貨建資産・負債はございません。
- (13) リース取引の処理方法
 

当行及び連結子会社の所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年4月1日前に開始する連結会計年度に属するものについては、通常の賃貸借取引に準じた会計処理によっております。
- (14) 重要なヘッジ会計の方法
  - (イ) 金利リスク・ヘッジ
 

当行の金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、金融商品に関する会計基準(企業会計基準第10号)注14により、金利スワップ取引に係る金銭の受払の純額等を当該資産等に係る利息に加減して処理しております。
  - (ロ) 為替変動リスク・ヘッジ
 

当行の外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号。)に規定する繰延ヘッジによっております。

ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う為替スワップ取引をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

連結子会社はヘッジ会計を適用しておりません。
- (15) 消費税等の会計処理
 

当行及び連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

- 5 連結子会社の資産及び負債の評価に関する事項
 

連結子会社の資産及び負債の評価については、全面時価評価法を採用しております。
- 6 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
 

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、連結貸借対照表上の「現金預け金」のうち現金及び日本銀行への預け金であります。

# 連結情報

## ■連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更

(リース取引に関する会計基準)

所有権移転外ファイナンス・リース取引については、従来、賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、「リース取引に関する会計基準」(企業会計基準第13号平成19年3月30日)及び「リース取引に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第16号同前)が平成20年4月1日以後開始する連結会計年度から適用されることになったことに伴い、当連結会計年度から同会計基準及び適用指針を適用しております。

これによる、連結貸借対照表等に与える影響は軽微であります。

## ■追加情報

(その他有価証券に係る時価の算定方法の一部変更)

売手と買手の希望する価格差が著しく大きい変動利付国債の時価については、従来、市場価格をもって連結貸借対照表計上額としておりましたが、昨今の市場環境を踏まえた検討の結果、市場価格を時価とみなせない状態にあると判断し、当連結会計年度末においては、経営者の合理的な見積りに基づく合理的に算定された価額をもって連結貸借対照表計上額としております。これにより、市場価格をもって連結貸借対照表計上額とした場合に比べ、「有価証券」及び「その他有価証券評価差額金」はそれぞれ1,997百万円増加しております。

変動利付国債の合理的に算定された価額は、国債の利回り等から見積った将来キャッシュ・フローを同利回りに基づく割引率を用いて割り引くことにより算定しており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティが主な価格決定変数であります。

## ■注記事項

(連結貸借対照表関係)

- ※1 貸出金のうち、破綻先債権額は2,311百万円、延滞債権額は18,228百万円であります。  
なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。  
また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- ※2 貸出金のうち、3カ月以上延滞債権額は164百万円であります。  
なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※3 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額は2,246百万円であります。  
なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※4 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は22,951百万円であります。  
なお、上記1から4に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※5 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は3,934百万円であります。
- ※6 ローン・パーティシペーションで、平成7年6月1日付日本公認会計士協会会計制度委員会報告第3号に基づいて、原債務者に対する貸出金として会計処理した参加元本金額のうち、連結貸借対照表計上額は500百万円であります。
- ※7 担保に供している資産は次のとおりであります。  
日本銀行共通担保、為替決済担保、公金事務取扱担保、金融派生商品取引担保として、有価証券65,428百万円、現金預け金21百万円及びその他資産2百万円を差し入れております。  
なお、その他資産のうち敷金保証金は222百万円あります。
- ※8 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は、119,065百万円あります。このうち原契約期間が1年以内のもの(又は任意の時期に無条件で取消可能なもの)が113,660百万円あります。

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行及び連結子会社の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行及び連結子会社が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内(社内)手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※9 土地の再評価に関する法律(平成10年3月31日公布法律第34号)に基づき、当行の事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。  
再評価を行った年月日 平成10年3月31日  
同法律第3条第3項に定める再評価の方法  
土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律第69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算定した価額に基づいて、興行価格補正等、合理的な調整を行って算出しております。  
同法律第10条に定める再評価を行った事業用の土地の当連結会計年度末における時価の合計額と当該事業用の土地の再評価後の帳簿価額の合計額との差額 1,909百万円
- ※10 有形固定資産の減価償却累計額 5,745百万円
- ※11 有形固定資産の圧縮記帳額 331百万円  
(当連結会計年度圧縮記帳額 一百万円)
- ※12 借入金には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金8,300百万円が含まれております。
- ※13 有価証券中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法第2条第3項)による社債に対する保証債務の額は1,670百万円あります。

(連結損益計算書関係)

- ※1 その他経常収益には、株式等売却益249百万円及び債権売却益8百万円を含んでおります。
- ※2 その他の経常費用には、貸出金償却52百万円、債権売却損失1百万円及び株式等償却383百万円を含んでおります。
- ※3 内訳は次のとおりであります。  
土地売却益 8百万円
- ※4 内訳は次のとおりであります。  
土地売却損 14百万円  
建物処分損 16百万円  
その他の有形固定資産処分損 0百万円  
除却損 13百万円
- ※5 減損損失  
当連結会計年度において、以下の資産について減損損失を計上しております。

地域	宮城県登米市
用途	営業用店舗
種類	土地及び建物
減損損失額	20百万円

上記の資産については、使用を中止して遊休状態となったことにより、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失額として特別損失に計上しております。

資産のグルーピング単位は、当行及び銀行業務を行う子会社については当行の管理会計上の最小区分(営業店単位、相互補完関係にある一部の営業店は当該グルーピング単位、共用資産は銀行全体としてグルーピング)で行っており、それ以外の子会社は個別別にグルーピングを行っております。

なお、遊休資産については、個々の資産単位でグルーピングを行っております。

当該資産グループの回収可能価額の算定は、正味売却価額により測定しており、重要性の乏しい不動産として路線価等を合理的に調整した価額に基づき行っております。

(連結株主資本等変動計算書関係)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項  
(単位：千株)

	前連結会計年度末 株式数	当連結会計年度 増加株式数	当連結会計年度 減少株式数	当連結会計年度末 株式数	摘要
発行済株式					
普通株式	7,591	—	—	7,591	
合計	7,591	—	—	7,591	
自己株式					
普通株式	19	1	—	21	(注)
合計	19	1	—	21	

(注) 当連結会計年度における増加は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2 配当に関する事項

(1) 当連結会計年度中の配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たりの 金額(円)	基準日	効力発生日
平成20年6月27日 定時株主総会	普通株式	189	25.00	平成20年3月31日	平成20年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が当連結会計年度の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たりの 金額(円)	基準日	効力発生日
平成21年6月26日 定時株主総会	普通株式	189	利益剰余金	25.00	平成21年3月31日	平成21年6月29日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

平成21年3月31日現在

現金預け金勘定	19,620百万円
定期預け金	△21百万円
その他の預け金	△520百万円
現金及び現金同等物	19,078百万円

(関連当事者情報)

(追加情報)

当連結会計年度より、「関連当事者の開示に関する会計基準」(企業会計基準第11号 平成18年10月17日)及び「関連当事者の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第13号 平成18年10月17日)を適用しております。

なお、これによる開示対象範囲の変更はありません。

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等の場合に限る。)等  
該当ありません。

(イ) 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等  
該当ありません。

(ウ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等  
該当ありません。

(エ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

種類	会社等の 名称	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等(当該 会社の子会社 を含む)	三井環境 株式会社	宮城県 仙台市 宮城野 区	10	古物売買・ 運搬・解体 工事業	—	金銭貸借関係	資金の貸付	10	手形貸付	—
							貸付金の返済	20		
	株式会社 アロムア ースト	宮城県 仙台市 泉区	10	建築工事業	(被所有) 直接0.0	金銭貸借関係	当座貸越	極度額 20	当座貸越	15
							資金の貸付	30	証書貸付	24
						貸付金の返済	11			
						当座貸越	極度額 20	当座貸越	9	
							利息の受取	0		

取引条件及び取引条件の決定方針等

(注) 1 当行役員の近親者が議決権の過半数を所有している会社であります。

2 融資取引につきましては、一般の貸出金と同様であります。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引  
該当ありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

該当ありません。

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当ありません。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

有形固定資産  
車両運搬具であります。

② リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項」の「(4) 減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2) 通常の賃貸借取引に係る方法に準じて会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リース取引

・リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び年度末残高相当額

取得価額相当額

有形固定資産 386百万円

無形固定資産 274百万円

合計 660百万円

減価償却累計額相当額

有形固定資産 348百万円

無形固定資産 274百万円

合計 622百万円

年度末残高相当額

有形固定資産 37百万円

無形固定資産 1百万円

合計 37百万円

・未経過リース料年度末残高相当額

1年内 16百万円

1年超 22百万円

合計 38百万円

・支払リース料、減価償却費相当額及び支払利息相当額

支払リース料 29百万円

減価償却費相当額 27百万円

支払利息相当額 1百万円

・減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

・利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各連結会計年度への配分方法については、利息法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

・オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

1年内 12百万円

1年超 2百万円

合計 15百万円

# 連結情報

## (退職給付関係)

### 1 採用している退職給付制度の概要

当行は、確定給付型の制度として、適格退職年金制度を設けております。また、従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

一部の連結子会社は、中小企業退職金共済制度および退職一時金制度を設けております。

### 2 退職給付債務に関する事項

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
退職給付債務 (A)	△5,100
年金資産 (B)	3,900
未積立退職給付債務 (C) = (A) + (B)	△1,199
会計基準変更時差異の未処理額 (D)	954
未認識数理計算上の差異 (E)	378
連結貸借対照表計上額純額 (F) = (C) + (D) + (E)	132
前払年金費用 (G)	274
退職給付引当金 (H) = (F) - (G)	△141

(注) 1 臨時に支払う割増退職金は含めておりません。なお、連結貸借対照表上、翌期に臨時に支払う予定の割増退職金7百万円は、その他負債に含めて計上しております。

2 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

### 3 退職給付費用に関する事項

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
勤務費用	240
利息費用	103
期待運用収益	△82
数理計算上の差異の費用処理額	18
会計基準変更時差異の費用処理額	159
その他(臨時に支払った割増退職金等)	46
退職給付費用	484

(注) 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、一括して「勤務費用」に含めて計上しております。

### 4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

区分	当連結会計年度 (平成21年3月31日)
(1) 割引率	2.0%
(2) 期待運用収益率	2.0%
(3) 退職給付見込額の期間配分方法	期間定額基準
(4) 数理計算上の差異の処理年数	10年(各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌連結会計年度から費用処理することとしている)
(5) 会計基準変更時差異の処理年数	15年

## (税効果会計関係)

### 1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主原因別の内訳

繰延税金資産	
貸倒引当金	2,611百万円
有価証券償却	2,243百万円
その他有価証券評価差額金	1,567百万円
有形固定資産の未実現利益の消去	604百万円
複合金融商品(貸出金)評価損	222百万円
減損損失及び減価償却超過額	160百万円
その他	250百万円
繰延税金資産小計	7,660百万円
評価性引当額	△3,509百万円
繰延税金資産合計	4,151百万円
繰延税金負債	
繰延税金負債合計	—百万円
繰延税金資産の純額	4,151百万円

### 2 連結財務諸表提出会社の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税率等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率	40.63%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	2.57
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△5.46
住民税均等割額	4.35
評価性引当額	37.72
その他	0.83
税効果会計適用後の法人税率等の負担率	80.64%

### (1株当たり情報)

	当連結会計年度 (自平成20年4月1日至平成21年3月31日)
1株当たり純資産額	2,116.40円
1株当たり当期純利益金額	17.26円

#### (注) 1. 算定上の基礎

##### (1) 1株当たり純資産額

	当連結会計年度末 (平成21年3月31日)
1株当たり純資産額	
純資産の部の合計額	16,021百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	—百万円
普通株式に係る期末の純資産額	16,021百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	7,569千株

##### (2) 1株当たり当期純利益金額

	当連結会計年度 (自平成20年4月1日至平成21年3月31日)
1株当たり当期純利益金額	
当期純利益	130百万円
普通株主に帰属しない金額	—百万円
普通株式に係る当期純利益	130百万円
普通株式の期中平均株式数	7,570千株

2. なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないので記載しておりません。

## ■リスク管理債権

(単位：百万円)

	平成20年3月期	平成21年3月期
破綻先債権額	2,199	2,311
延滞債権額	22,014	18,228
3カ月以上延滞債権額	189	164
貸出条件緩和債権額	4,176	2,246
合計	28,580	22,951

(注) 平成21年3月期連結リスク管理債権の項目説明につきましては、16ページの注記事項(連結貸借対照表関係※1から※4)に記載しております。

## ■連結自己資本比率(国内基準)

(参考)

自己資本比率は、銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁告示第19号。以下、「告示」という。)に定められた算式に基づき算出しております。  
 なお、当行は、国内基準を適用のうえ、信用リスク・アセットの算出においては標準的手法を採用しております。

(単位：百万円)

		平成20年3月期	平成21年3月期
基本的項目 (Tier1)	資本金	7,485	7,485
	うち非累積的永久優先株	—	—
	新株式申込証拠金	—	—
	資本剰余金	5,875	5,875
	利益剰余金	4,249	4,180
	自己株式(△)	△58	△62
	自己株式申込証拠金	—	—
	社外流出予定額(△)	△189	△189
	その他有価証券の評価差損(△)	△2,449	—
	為替換算調整勘定	—	—
	新株予約権	—	—
	連結子法人等の少数株主持分	—	—
	うち海外特別目的会社の発行する優先出資証券	—	—
	営業権相当額(△)	—	—
	のれん相当額(△)	—	—
	企業結合等により計上される無形固定資産相当額(△)	—	—
	証券化取引に伴い増加した自己資本相当額(△)	—	—
	繰延税金資産の控除前の〔基本的項目〕計(上記各項目の合計額)	14,913	17,289
	繰延税金資産の控除金額(△)	—	—
	計(A)	14,913	17,289
補完的項目 (Tier2)	うちステップ・アップ金利条項付の優先出資証券(注1)	—	—
	土地の再評価額と再評価の直前の帳簿価額の差額の45%相当額	1,930	1,933
	一般貸倒引当金	1,929	1,580
	負債性資本調達手段等	7,460	6,800
	うち永久劣後債務(注2)	—	—
	うち期限付劣後債務及び期限付優先株(注3)	7,460	6,800
計	11,320	10,314	
うち自己資本への算入額(B)	11,298	10,314	
控除項目	控除項目(注4)(C)	—	229
自己資本額	(A)+(B)-(C)(D)	26,211	27,374
リスク・アセット等	資産(オン・バランス)項目	271,442	273,084
	オフ・バランス取引等項目	7,019	6,335
	信用リスク・アセットの額(E)	278,462	279,419
	オペレーショナル・リスク相当額に係る額((G)/8%)(F)	27,343	25,861
	(参考) オペレーショナル・リスク相当額(G)	2,187	2,068
	計(E)+(F)(H)	305,805	305,281
	連結自己資本比率(国内基準)=D/H×100(%)	8.57	8.96
(参考) Tier1比率=A/H×100(%)	4.87	5.66	

(注) 1. 告示第28条第2項に掲げるもの、すなわち、ステップ・アップ金利等の特約を付すなど償還を行う蓋然性を有する株式等(海外特別目的会社の発行する優先出資証券を含む。)であります。  
 2. 告示第29条第1項第3号に掲げる負債性資本調達手段で次に掲げる性質のすべてを有するものであります。  
 (1)無担保で、かつ、他の債務に劣後する払込済のものであること  
 (2)一定の場合を除き、償還されないものであること  
 (3)業務を継続しながら損失の補てんに充当されるものであること  
 (4)利払い義務の延期が認められるものであること  
 3. 告示第29条第1項第4号及び第5号に掲げるものであります。ただし、期限付劣後債務は契約時における償還期間が5年を超えるものに限定されております。  
 4. 告示第31条第1項第1号から第6号に掲げるものであり、他の金融機関の資本調達手段の意図的な保有相当額、及び第2号に規定するものに対する投資に相当する額が含まれております。

## ■セグメント情報

### 1.事業の種類別セグメント情報

前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)及び当連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)  
 連結会社は銀行業以外に一部でクレジットカード等の事業を営んでおりますが、これらの事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、事業の種類別セグメント情報は記載していません。

### 2.所在地別セグメント情報

前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)及び当連結会計年度(自

平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

本邦以外の国または地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はございません。

### 3.国際業務経常収益

前連結会計年度(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)及び当連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)  
 国際業務経常収益が連結経常収益の10%未満のため、国際業務経常収益の記載を省略しております。